

乙女の像

黒御影石の台座に立つ銅像は乙女の像です。近代日本を代表する彫刻家であり、詩人でもある高村光太郎（1883 年～1956 年）が 1953 年に制作しました。乙女の像は十和田国立公園の開園 15 周年を記念するだけでなく、十和田の歴史に名を刻んだ 3 人の功績を讃えるために作られました。十和田湖が無名だった時代にその美しさを歌った詩人の大町桂月、当時青森県知事を務めていた武田千代三郎、そして十和田村の村長であった小笠原耕一の 3 人です。高村光太郎が 2.1 メートルの銅像に費やした制作期間は 1 年。亡き妻、千恵子に捧げるため、彼女自身をモデルにしたと言われています。

乙女の像は高村光太郎にとって最後の作品でした。

銅像は湖の象徴として日本の観光客に大変親しまれています。十和田市民にも歴史的遺産として大切にされています。